



最初にお読みください

CentreCOM® 9048XL リリースノート

この度は、CentreCOM 9048XL（以下、特に記載がないかぎり「本製品」と表記します）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.1.2

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.1.1 から 2.1.2 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 ポート番号が最大のスイッチポートにおいて、イングレスフィルタリングが動作しませんでした。これを修正しました。
- 2.2 ポート番号が最大のスイッチポートにおいて、ハードウェアパケットフィルタが動作しませんでした。これを修正しました。
- 2.3 CREATE ACL コマンドでポートあたりの最大数（128 個）を超えるクラシファイアを指定した場合、コマンドがエラーになるにもかかわらず、該当コマンド行で指定したクラシファイアが不正な状態で ACL に登録されていましたが、コマンドがエラーになる場合は ACL の登録が行われないよう修正しました。
- 2.4 MAC ベース認証において、複数の VLAN に所属しているポートを認証ポートに設定した場合、同一 MAC アドレスからのパケットが該当ポートの複数の VLAN で受信され、認証が行われると、先に受信した VLAN での認証しか成功しない場合がありますが、これを修正しました。
- 2.5 クラス標準でないネットマスクを設定している場合、認証用 DHCP サーバーが適切な IP アドレスを割り当てない場合がありますが、これを修正しました。
- 2.6 ADD IGMP Snooping MCGROUP コマンドでマルチキャストグループアドレスを手動登録している場合、SET IGMP Snooping MCGROUP コマンドの ROUTERPORT パラメーターで該当グループアドレスのルーターポートを変更するとシステムがリブートしていましたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 2.1.2 には、以下の制限事項があります。

3.1 SNMP

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP マネージャのタイムアウトによって、同時に 5 個以上の SNMP マネージャから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。

3.2 RADIUS サーバー

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

- 802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。
- RADIUS アカウンティング機能が有効時に、RADIUS サーバーから Access-Reject パケットを受信すると、本製品から Failed 属性が付加された Accounting-Request パケットが送信されます。

3.3 IP

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

3.4 スイッチング

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- スイッチポートの通信速度を変更するとリンクダウン・リンクアップが発生しますが、複数のポートを指定して、AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO のいずれかに設定を変更した場合、link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- 100Mbps 光ポート (SFP ポート) では、Jumbo フレームのフレーム長は 9000Byte 以下のサポートとなります。
- AUTONEGOTIATE でリンクしている 1000Mbps 光ポート (SFP ポート) に対して、通信モードを 1000MFULL に変更すると、リンクダウンするのが正しい動作ですが、いったんリンクダウンしたあと再度リンクアップすることがあります。
- 100Mbps 光ポート (SFP ポート) において、ミッシングリンク機能がない (または無効に設定されている) メディアコンバーターを経由して通信を行ったあと、本製品を再起動すると起動時にエラーが発生し、通信不可の状態になります。

3.5 ポートランキング

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

トランクグループを以下のいずれかの条件で複数作成し、512 個以上の MAC アドレスが使用される通信が発生している状態で、トランクポートの追加と削除を繰り返し実施すると、本製品がリポートすることがあります。

- ・ トランクグループの所属ポートに 512 個以上のスイッチフィルターが登録されている
- ・ トランクポートの通信モードがポート本来の通信モードと異なる設定になっている

3.6 ハードウェアパケットフィルター

 **【コマンドリファレンス】 / 【ハードウェアパケットフィルター】**

作成済みの ACL のエントリーに対して SET ACL コマンドで割り当てポートを変更しようとしても、ポートの追加になってしまいます。

作成済みのエントリーの割り当てポート変更する場合は、一度 DESTROY ACL コマンドで該当エントリーを削除後、CREATE ACL コマンドで作成しなおしてください。

3.7 ポート認証

 **【コマンドリファレンス】 / 【ポート認証】**

- Web 認証において、リンクダウンをとまなわない Supplicant のポート移動時に、Supplicant がログアウトしてからポートを移動しても、移動先で認証に失敗することがあります。
- SET IP コマンドで本製品の IP アドレスを変更すると、認証用 DHCP サーバーから適切な IP アドレスが割り当てられません。
- 認証用 DHCP サーバーで割り当てられるホストアドレス以上の端末が接続された場合、範囲外のアドレスが割り当てられます。

3.8 IGMP Snooping

 **【コマンドリファレンス】 / 【IGMP Snooping】**

- IGMP Snooping 有効時、IGMP パケットの通信中にグループの所属 VLAN を変更すると、IGMP Snooping 用のテーブルから変更前の VLAN 情報が削除されません。
- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。
- IGMP Snooping と、EPSR アウェアまたはスパニングツリープロトコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。
なお、EPSR アウェアについては、CREATE EPSR コマンドの DELETEMCAST オプションで、リングトポロジーチェンジ発生時にマルチキャストグループのエントリーを FDB から削除する設定が可能です。

3.9 IGMP Snooping/MLD Snooping

 **【コマンドリファレンス】 / 【IGMP Snooping】**

 **【コマンドリファレンス】 / 【MLD Snooping】**

ポートランキングと IGMP Snooping または MLD Snooping の併用時、トランクグループ内で最も番号の小さいポートを DISABLE SWITCH PORT コマンドで無効に設定すると、トランクグループ内のそれ以外のポートでマルチキャストデータが転送されなくなります。

ただし、DISABLE SWITCH PORT コマンド実行時に LINK=DISABLE を指定して、該当ポートを物理的にリンクダウンさせると、本現象は発生しません。

3.10 スパニングツリー

 **【コマンドリファレンス】 / 【スパニングツリープロトコル】**

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。

3.11 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」**

- Web GUI に対して、ログイン失敗などの不正アクセスを一定回数繰り返すと、本製品がリポートします。
- Web GUI で マ ル チ プ ル VLAN(Protected Port 版) の ポ ー ト 設 定 を行う際、グループ番号の設定変更とタグなし/タグ付きの設定変更を同時に行うことができますが、個別に変更するようにしてください。グループ番号の変更とタグなし→タグ付きの変更を同時に行った場合、該当ポートがタグなしとしてデフォルト VLAN にも追加されます。

4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 9048XL コマンドリファレンス 2.1.0 (613-001280 Rev.C)」の補足・誤記訂正です。

4.1 トリガーエントリーの作成

 **「取扱説明書」 85 ページ**

取扱説明書の 85 ページ「トリガーエントリーの作成」において、CREATE TRIGGER コマンドの ENDTIME と STARTDATE パラメーターの説明に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

- ENDTIME
誤：
ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないかぎりパワーセーブモードが継続します）。
正：
ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま翌日になるまで終了しません。
- STARTDATE
誤：
ENDDATE と ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないかぎりパワーセーブモードが継続します）。
正：
ENDDATE と ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま翌日になるまで終了しません。

4.2 動作時温度 45℃対応

 **「取扱説明書」 128 ページ**

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」**

ファームウェアバージョン 2.1.0 から、動作時温度の上限値が 40℃から 45℃に変更されました。ファームウェアバージョン 2.1.0 以降で動作させる場合、本製品の動作時温度は 0～45℃となります。ただし、以下の条件下では、2.1.0 以降も動作時温度は 0～40℃です。

- 垂直方向設置時
- 以下の SFP モジュール使用時
 - ・ AT-MG8T
 - ・ AT-SPLX40
 - ・ AT-SPZX80

4.3 SNMP : NEWADDRESS トラップ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

コマンドリファレンスの ADD/CREATE/DELETE SNMP COMMUNITY コマンド、DISABLE/ENABLE/SHOW SNMP TRAP コマンドのページには、NEWADDRESS トラップの送出条件が「フォワーディングデータベース (FDB) に MAC アドレスが学習されたとき」と記載されていますが、正しくは「フォワーディングデータベース (FDB) にエントリ種別が Dynamic な MAC アドレス (ダイナミックエントリ) が学習されたとき」です。ポートセキュリティーの Limited モード、Secure モードでは学習したアドレスをスタティックエントリとして扱うため、アドレスを学習しても NEWADDRESS トラップは送出されません。

4.4 ループガード : タグ付きポートへの LDF 検出有効設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

ファームウェアバージョン 2.1.0 から、ENABLE SWITCH LOOPDETECTION コマンドで、タグ付きポートに対して LDF 検出機能を有効に設定できるようになりました。ただし、LDF の送出と検出はタグなしパケットで行われますので、タグ付きポートで LDF 検出機能を有効にする場合は、タグなしポートとしても VLAN に所属させるようにしてください。

4.5 SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

コマンドリファレンスには、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される下記統計カウンターの説明として「未サポート。常に 0 を表示」と記載されていますが、「常に 0 を表示」という記述は誤りです。ただし、これらの統計カウンター自体は、コマンドリファレンスの記述どおり未サポートです。

- Transmit - Discards
- Transmit - PauseFrames
- AlignmentErrors
- ExcessiveCollisions

4.6 EPSR (トランジットノード) 有効化時の動作

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「EPSRアウェア」

ファームウェアバージョン 2.1.1 から、EPSR (トランジットノード) を有効化するときリング接続ポートが両方もリンクアップしている場合の動作 (各種状態の設定) を次のとおり変更しました。

	バージョン 2.1.0 まで	バージョン 2.1.1 から
EPSR ドメインの状態	Links-Up	Pre-Forwarding
リングを構成する第 1 ポートの状態	Forwarding	Forwarding
リングを構成する第 2 ポートの状態	Forwarding	Blocking

4.7 DHCP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「DHCP Snooping」

コマンドリファレンス記載の「登録できるクライアントの数」に誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

ポートごとに、最大 5 クライアントまで登録でき、装置全体では最大 260 クライアントまで登録できます。

正：

ポートごとに、最大 5 クライアントまで登録でき、装置全体では最大 255 クライアントまで登録できます。

4.8 SHOW CLASSIFIER コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「クラシファイア」

コマンドリファレンスにおいて、SHOW CLASSIFIER コマンドの表示項目を説明する「表 1」の記載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

- Priority

誤：

対象パケットに適用する 802.1p ユーザープライオリティー (0 ~ 7) 値または ANY。PRIORITY を指定した場合に表示される

正：

対象パケットの 802.1p ユーザープライオリティー (0 ~ 7) 値または ANY。PRIORITY を指定した場合に表示される

- Protocol

誤：

対象パケットの IP プロトコルフィールド値 (16 進数) とプロトコル名または ANY。PROTOCOL を指定した場合に表示される

正：

対象パケットのプロトコルフィールド値 (16 進数) とプロトコル名または ANY。PROTOCOL を指定した場合に表示される

4.9 Web GUI

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」

スイッチ設定 / ポート / ポート設定画面の「設定」ボタンを押すと、対象ポートがいったんリンクダウンします。

設定内容に変更がない場合や、ポート名称だけを変更した場合などにもリンクダウンしますのでご注意ください。

5 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (パラメーター) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
SET HTTP SERVER PORT
SET SYSTEM LANG
RESET PORTAUTH PORT
LOAD METHOD=TFTP FILE=filename SERVER=ipadd BOOT
SET IGMP Snooping HostStatus
SET MLDSNOOPING HOSTSTATUS
SHOW DHCP Snooping NVS
SHOW DHCP Snooping HWFilter
```

6 コマンドリファレンスについて

コマンドリファレンス「CentreCOM 9048XL コマンドリファレンス 2.1.0 (613-001280 Rev.C)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「613-001280 Rev.C」はコマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>